

登山月報

第27回ジャパンカップ東久留米スポーツセンターで開催 … 1
 平成25年度指導員総会及び研修会 …… 2
 第56回 Mountain World …… 3
 エベレスト初登頂60周年記念祝賀会報告 …… 4
 パキスタン北部地域における外国人旅行者に
 対する襲撃の発生に伴う注意喚起 …… 4
 平成25年度国際委員総会及び
 第32回海外遭難対策研究会の報告 …… 5
 田中顧問の叙勲受章を祝う会 …… 6
 2013 U A A 理事会報告 …… 7
 JMA、寄贈図書、編集後記 …… 9

第27回ジャパンカップ東久留米スポーツセンターで開催

6月1日、2日、東京・東久留米スポーツセンターで、国体リハーサルも兼ねたリードジャパンカップが開催された。

男子は安間佐千、松島暁人が欠場ということで、優勝候補が20名近く居るといふ、過去に例がない実力伯仲の戦いとなった。樋口純裕、新田龍海、尾形和俊といった決勝常連組が準決勝落ちするなか、男子は島谷尚季、羽鎌田直人を抑え、長野の笠原大輔が初優勝した。

女子はボルダリングワールドカップ参戦のため、野口啓代、小田桃花が欠場。小林由佳と田嶋あいか、新旧の戦いが予想されたが、準決勝で田嶋は上部でスリップしまさかの8位。決勝では両名とも完登したが、カウントバックで小林の優勝となった。全体にユース選手の活躍が目立ったが、中学2年生の菊沢絢が5位に入賞したのは特筆に価するといえよう。

この大会の結果と、日本選手権の成績を考慮し、6月5日にリード日本B代表が発表された(S代表は安間佐千、A代表は該当者なし)。実力者が目白押しで選考が目された男子は、日本選手権から1位の松島暁人～6位まで、ジャパンカップから1位～5位が選ばれた。意外にも重複する選手は島谷尚季のみだったので、合計10名で決定した。

(文=北山 真、写真=山本浩明)

男子		女子	
1	笠原 大輔	1	小林 由佳
2	島谷 尚季	2	田嶋あいか
3	羽鎌田直人	3	大田 理姿
4	中野 稔	4	義村 萌
5	藤井 快	5	菊沢 絢
6	中原 栄	6	小武 芽生
7	是永敬一郎	7	大澤 咲子
8	芝田 将基	8	野中 生萌
		9	竹内 彩佳



笠原大輔選手



小林由佳選手

平成25年度指導委員総会及び研修会

6月8日(土)～9日(日)、東京海員会館にて日本山岳協会指導委員総会及び研修会が開催された。今回は43都道府県からの参加で過去最高の60名の出席となった。

神崎会長からは新しい公益社団法人日本山岳協会のスタートにあたり、日山協全体の事を考えて、指導委員の皆さんにも大いに活躍と協力をお願いしたい、と挨拶があった。

続いて永井指導委員長からは指導者資格の入力システムの本格化と平成25年度より国体の監督として、指導員資格が必須であることから、指導員養成講習会の日山協の直接開催と地区での開催の環境づくり、ハイキングリーダー制度の推進と都道府県の活性化を図っていききたい、と挨拶があった。

【研修会報告】

8日の研修会では、以下の説明があった。

*公認指導者更新登録に伴う指導者管理システムについて注意点の説明。

名称は研修会とし3時間以上でなくてはならない、昨年の9月から日山協への紙ベースでの申請は要らない。すべてWeb上での申請、承認となる。また、指導者養成講習会の講師は指導者更新の対象にならない。

*指導者養成講習会の申請・報告は従来通り、紙ベースでの申請が必要。

*日山協指導委員会専用のアドレスを作成したこと。

*ハイキングリーダー制度について

今年度にテキストの作成を終了して平成26年度に講師の指導レベルの統一化、平成27年度に講習会をスタートするための準備中であること。

*実技研修として、堤常任委員から搬送法について講義とデモンストレーションがあった。



【指導委員総会報告】

9日の委員総会では、以下の報告と説明がなされた。

*平成24年度事業報告、平成25年度事業計画、日山協指導委員会が実施する義務研修会について報告。

*平成25年度登攀技術研修会(岩手)の確認と平成26年度中国・四国地区での開催の提案。主任検定員A、B級の詳細について、全国の資格取得状況につき報告。

*スポーツクライミングの指導者養成講習会については平成25年度実施(埼玉、他)と平成26年度候補地について報告。

*規約・規程集の改訂、アルパイン指導者検定基準改訂につき説明。

*日体協公認スポーツ指導者等表彰候補者として平成25年度は、佐原晴人(愛知)、井上邦彦(山形)、切嶋良(常任委員)。平成26年度は、小山幹(宮城)、開澤浩義(富山)、蛭田伸一(常任委員)の推薦があった。

*ブロック別研修会としては、

ハイキングリーダー制度実施にあたっての課題について4つのブロックに分かれ、主旨、定義、内容、費用、検定方法、検定費用、運営、講習会、認定につき、意見交換会が開催された。

テキストと講習の質、講師のレベルの統一化、責任の所在等が指摘された。

閉会にあたり瀧本指導副委員長(平成25年度から指導委員長)より、日山協指導委員会は大切な課題を多く抱えているが、良いものを作り上げたいと思っているので、今後とも協力いただきたいと締めくくった。

(文責・指導常任 野村善弥)

第56回 Mountain World

ナンガ・パルバットのテロ事件

池田常道

6月22日深夜、ナンガ・パルバット(8126m)のディアミール側BCがタリバンを名乗るテロリストに襲われ、各国登山者10人とパキスタン人BCスタッフ1人が射殺されるという惨劇が起こった。犯人はパキスタン陸軍風の迷彩服を着た12ないし15人で、夜陰にまぎれて10時半ごろBCに侵入。テントをひとつひとつ回って登山者を駆り出し、金品やパスポートを奪ったうえで次々に射殺した。

このBCには7隊約50人の外国人登山者が入山していたが、天候回復とともに順応行動に移ってC2に上がっていたメンバーもあったため、犠牲になったのは体調不良などでBCにとどまっていた人々のうち一部だった。また、この夜BC近くまで降りてきて異変を感じ、手前の闇の中にとどまって難を逃れたパーティもあった。犠牲になったのは以下の11名である。

ウクライナ隊のイゴール・スヴェルゲン隊長とバダウィ・カシャエフ、ドミトリー・コニャエフ。中国隊のラオ・ジャンフェン(饒剣峰)、ヤン・チュンフェン(楊春風)、チェン・ホンルー(米国籍)。ポーランド国際隊のエメスタス・マルクサイティス(リトアニア)。セブンサミット・トレックス隊のソナ・シェルパ(ネパール)。スロヴァキア隊のアントン・ドベス、ペーテル・スペルカ。パキスタン人BCスタッフのアリ・フセイン(フーシェ谷出身)。

テロリストたちは午前2時ごろまでに現場から引き揚げ、早朝急報を受けてヘリで飛来したパキスタン陸軍部隊が生存者を保護して順次ギルギットへと搬送、C130機でイスラマバードへと運んだ。犠牲者の遺体も棺に納められ、同様に首都まで運ばれた。軍と警察はBC一帯を封鎖し、犯人を捜索しているが、2週間たった現在も実行犯の特定・逮捕には至っていない。

パキスタン・タリバン運動(TTP)の声明では、この攻撃は、前月行なわれた米軍無人機による幹部殺害への報復だとしているが、生存者の話では(米軍に殺害された)ビン・ラーディンの仇を討つと口走っていた者もいたという。

*

TTPは、アフガニスタンに拠点を置くタリバンと

は異なった組織でいくつもの分派を持ち、軍や民間人を標的とした自爆テロや身代金目的の誘拐などを繰り返してきた。最近では、昨年2月にコヒスタンでバスを襲ってシーア派乗客18人を殺害した一件があり、8月にはバブサール峠付近でもバスを攻撃、シーア派乗客20人以上を殺害した(注・タリバンは敵対するスンニ派イスラム教徒である)。登山者が直接テロの犠牲になったのは今回が初めてで、パキスタン観光の安全性に不安を抱かせるようTTPが仕組んだことは明らかだ。今回の襲撃は、新たに組織されたジュヌード・ウル・ヒフサによるものという。

かいつまんで言えば、9.11米国同時テロ以降アフガンを追われたタリバン戦士は国境のパキスタン側部族地域に流入し、徐々にその支配権を握った。アフガンへの影響力保持を狙うパキスタン軍部も当初は陰で支援した。しかし、米国の強い圧力を受けたパキスタン軍は2009年、支配権を取り戻すべく2度にわたってスワート地域に進攻、このとき追われた難民のなかに多数のタリバン戦士が含まれていた。彼らはギルギット=バルチスタンへと流れてディアミール谷周辺に侵入した。かつては比較的安全といわれたナンガ・パルバットもいつの間にか危険地帯に変わっていた。チラスを通るカラコルム・ハイウェイとてもはや安全とはいえず、スカルドへは空路をとるしかなくなっている。

*

なお、ディアミール側に入山していた7隊は、犠牲者のあった隊も幸運にも難を逃れた隊も、すべて登山を中止したが、ルパール側から南西稜に向かっていったルーマニア隊は、軍の安全保障を得て登山を継続、7200m付近まで達して頂上をうかがっている。



ディアミールBCからのナンガ・パルバット西壁

エベレスト初登頂 60 周年記念祝賀会報告

ネパール山岳協会(NMA)から標記60周年(ダイヤモンド)祝賀会の案内、招待状が日山協へ届いたので数人の登頂者に参加しますかと聞くと殆どの方は祝賀会そのものを知らず、案内が届いていた数人の有名登山家も参加はしないという。

50周年(ゴールデン)の時はあれほどいた参加希望者が今回はほぼゼロである。ダイヤモンドよりは金(きん)の方が価値があるらしいと分かったが、私くらいは行かねばなるまいと思いつけた。着いた28日の昼食は今春でエベレスト21回登頂でアパと並んだプルバ・タシ・シェルパ(42歳)と。晩はネパールヒマラヤンレスキュー協会主催のパーティー。本番の5月29日、案の定、目玉となる有名登山家の参加は殆んど無かった。延6000人超の登頂者がいては仕方ない?

メスナー、ヒラリーの娘と孫娘、テンジン・ノルゲイの息子タシ、ジャムリン兄弟程度であとは私が欧米人登山家を知らなすぎたか分からなかった。あとはKTM在住の昨年よりまた1歳トシをとったエリザベス・ホーリーさんと多勢のシェルパ、シェルパ、シェルパ。

登山の格好をしたシェルパもいるが仮装行列ではない。「バラサーブ!私ほどこの山へ一緒に行った」と何人にも言われる。申し訳ないが名前はもちろん顔も覚えていない。

NMAはこの祝賀会の主催権(?)を旅行業協会などに奪われ良い思いはそれ程出来なかったらしい。馬車、オープンカー、トラックの荷台に分乗し、その他



多勢は楽隊や動員された学生、各種団体代表などとシンガー・ダーバーの少し北側から郵便局、ネパール航空本社前からニューロードを通してダーバー広場、クマリ寺院の横での市民参加の祝賀会となる。

午後はイギリス大使館の庭でのパーティーと引き続いて元の王宮(例の事件があった、現ネパール博物館)で正式な祝賀式典。挨拶の多さ、長さには閉口するが、きれいな夕焼けを眺めて我慢する。暗くなってからディナーとなるが酒が出ないので私はホテルへ引き上げてチビリ、チビリの1人パーティーで祝賀会は終わった。

NMAはこんなことでは全く懲りる風はなく、来年はチョー・オユー、再来年はカンチと次々と60周年祝賀会を実行するつもりらしい。ダイヤモンドより金の方をみんなが好むというらしいのに。

(副会長 八木原罔明)

パキスタン北部地域における外国人旅行者に対する襲撃の発生に伴う注意喚起

6月23日午前1時頃、パキスタン北部のギルギット・バルチスタン(以下「GB」)地域にあるナンガ・パルバットの山麓において、滞在していた外国人旅行者等に対する襲撃事件が発生し、中国人やウクライナ人など外国人10名及びパキスタン人1名が殺害された。事件の犯行主体や背景等は不明だが、これまでにパキスタン・タリバン運動(TTP)をはじめとする複数の過激派組織が犯行声明を出している。これらの声明では、今回の事件では外国人観光客を狙ったと述べるとともに、今後も外国人を襲撃対象とする事を明確に述べている。同地域では、イスラム教スンニ派とシーア派の宗教対立が深まっており、2012年4月にも、宗教対立に端を発してギルギット市内に外出禁止令が発令され、邦人旅行者77名が同地域内に留め置かれた事案が発生している。また、同年8月には、隣接するマンセーラ郡ナランにおいてTTPによるシーア派及び旅行者に対する襲撃事件が発生している。TTPは今後もシーア派を標的としたテロ攻撃を実行すると警告している。

外務省では、ギルギット・バルチスタン地域への渡航は控えるよう呼びかけている。

【問合せ】 ○外務省領事サービスセンター 電話：03-3580-3311 内線2902
○外務省 海外安全ホームページ <http://www.anzen.mofa.go.jp/>
<http://m.anzen.mofa.go.jp/mbtop.asp> (携帯版)

平成25年度国際委員総会及び第32回海外遭難対策研究会の報告

6月22、23日の週末、東京都八王子のセミナーハウスにおいて平成25年度国際部委員総会と第32回海外登山遭難対策研究会が開催された。参加者は15岳連からの代表と役員も合わせて27名。最初に八木原副会長から挨拶をいただいたが、この参加人数の少なさが現在の日本のヒマラヤ登山の現状を示している、という言葉が印象的であった。

プログラムの最初は委員総会。ひと通りの議事が終わった後、この春から委員長に就任した澤田の希望で、各岳連の現状報告や課題を提示してもらった。この点については後で述べる。

委員総会後は海外登山遭難対策研究会に移り、まずはウェットレック社の貫田宗男氏による「各国のヘリコプター事情」の講演があった。海外登山コンサルタントとして働く氏の経験から、多くの高所ヘリコプターレスキューの事例が紹介された。華々しい救出劇の裏では、実は結構な確率でヘリコプターの事故も起きており、高所でのレスキューには大きなリスクがあるとのことであった。ヘリコプターの性能向上と通信機器の発達により、ヒマラヤの高所からも、以前であれば亡くなっていたような重篤患者が救出されるようになってきている。そのために登山者が加入する保険も高額費用をカバーできるものにしなければならないなど、現実に即した提言もあった。

その後、立食パーティー形式の食事があり、懇親会へと続いて初日は終了した。

翌日は国際山岳ガイドである近藤謙司氏に「ガイド登山の実情」と題してお話をいただいた。エベレストをはじめとする高所登山ガイドを仕事とする氏からは、顧客をエベレストに登らせるまでのプログラムや、無事に登らせるために注意していることなど、高峰ガイド登山の実際を披露していただいた。そしてガイド登山が隆盛な近年だからこそ増えている遭難事故のスタイル(客が多すぎるためにシェルパの経験や質が低下したための事故)にも注意が必要とのこと。またガイド登山の功罪について参加者から質問があり、確かに自分でルート工作できる人が減るのではとの指摘もあるが、現在多くいる未組織登山者の受け皿になっていること、その人たちがゆくゆくは自立した登山者になっていければと考えていること、などお話があった。

最後に飯田肇氏(立山カルデラ砂防博物館)による



「立山連峰の積雪と氷河」の講演があった。昨年、立山地域の3つの万年雪が国内初の氷河認定を受けたが、それは世界でも稀にみるこの地域の積雪量に因るところが大きい。気温だけでは到底3000mの標高に氷河はできないが、大量の積雪に、風による積雪の不均一性、また雪崩による集積が、立山に氷河を形成する条件になったとのことであった。そして現在の研究によって、さらに氷河認定は増えそうとのこと。海外登山とも遭難とも関連は薄い、タイムリーな話題に興味深く聞き入った。

最後に新委員長の澤田が挨拶をして、すべてのプログラムを終了した。

〈各岳連・海外委員会の現状〉

私(澤田)の出身は東京都岳連であるが、都岳連の海外委員会の現状を振り返ってみる。年3回の報告会や勉強会を企画運営しているが、年々参加者は減る傾向にあり、また報告してもらおう人(登山隊)を探すのにも手間取る事態になっている。とても海外登山が盛んとは言えない状況である。以前は推薦状の発行という必須の役割があったが、今はそれもなく、情報も家に居ながら簡単にネットで手に入る時代となり、海外委員会の存在意義が改めて問われている。

各岳連に近年の状況を聞いてみると、抱えている課題によって、大きく二つに分けられることが分かった。関東近県や近畿圏の岳連は、都岳連と同様に海外登山報告会への参加者減や、報告会のネタ不足に悩んでいた。それはある程度の組織規模があり、構成員の中に海外登山に出かける力のある人がいる場合の悩みと言える。しかし多くの地方岳連の悩みは、海外登山自体が岳連が主体となって企画しなければ成り立たない状

況で、何年ぶりかの海外遠征を岳連主体でどうにか実行したい、というのが課題になっている。つまり、海外登山の質を問うことと存続を願うこと、という別次元の課題があることが分かった。

また今年から日山協は公益法人となり、日本の登山界をまとめる存在になろうとしている。そのため国際委員会も、広く登山者全体のための事業を意識しなければならない。しかし多くの地方岳連は組織存続に追われ、それどころではない雰囲気がある。

このように各組織によって、相当のベクトルの違いがあることが分かった。

ただ共通の認識と考えていいと思ったことは、岳連に関係しない登山者人口は相当数いて、その人たちを岳連に取り込む努力をすべきであろうということ。

いまや未組織登山者は登山者全体の80%ともいわれ、彼らこそが主流と言えなくもない状況になっている。彼らは講習会や体験会、登山を教えてくれる場に飢えていて、読図や装備などの机上講習会や実際に山を歩くスクールなども盛況である。そういうイベントを企画し、新しい人、若い人をどんどん岳連に取り込んでいくことは、公益である日山協の目的にも適うし、活力不足に悩む地方岳連にもプラスになると思う。

国際委員会は、日山協の中では「卓越登山」を担うものとする。海外に出て山に登ることが特別なことではなくなったこの時代、またヒマラヤにおいてさえガイド登山が主流になっている昨今に、日本の登山界のために国際委員会にできることを考えていかなければならない。
(国際委員長 澤田 実)

田中顧問の叙勲受章を祝う会

6月16日に東京の明治記念会館で、平成25年度春の叙勲で「旭日小綬章」を受章された田中文男顧問の叙勲受章を祝う会が日山協と埼玉県山岳連盟の共催で行われた。

当日は、日本体育協会・岡崎助一専務理事、埼玉県加須市・大橋良一市長、小鹿野町・福島弘文町長、子供の町・松平恒忠理事、元宮内庁秩父宮家宮務官・山口峯生氏、日本勤労者山岳連盟・斎藤義孝理事長、日本山岳会・森武昭会長、日本ヒマラヤ協会・伊東満理事長、無名山塾主宰・岩崎元郎氏などのご来賓をはじめ、北は青森県から南は大分県に至る全国各地から154名の参加を得て盛大に挙行された。

はじめに埼玉岳連の浅見豊名誉顧問が開会を宣言し、神崎忠男会長が発起人を代表して挨拶を行った。引き続きご来賓を代表して岡崎専務理事、大橋市長、

松平理事からご祝辞を頂戴した。松平氏は田中氏が永年に亘って貢献されてきた養護施設「子供の町」について語られ、登山界とは別の功績を紹介された。

来賓祝辞の後、呼名によるご来賓の紹介があり、祝宴となった。乾杯は、坂口三郎顧問のご発声で祝杯を上げた。

懇談の冒頭では、河野有香さんのピアノ演奏があり、田中顧問の謝辞の後には、ピアノ伴奏で「雪山讃歌」と「坊がつる讃歌」を皆で合唱して大いに盛り上がった。埼玉岳連の森下健七郎会長の中締めの後、八木原昭明副会長が閉会を宣言して、お開きとなった。

尚、今春の叙勲では、茨城県山岳連盟の二階堂章信会長が「瑞宝小受章」、前青森県山岳連盟会長の下山壽氏が「旭日双光章」をそれぞれ受章された。叙勲の榮譽に浴されたご両人にも心よりお祝いを申し上げます。

(尾形好雄 記)



2013 U A A A 理事会報告

出席者 神崎会長、小野寺(記録)
日程 2013年6月1日～5日、6月1日夕方台北到着、CTMA/ 中華民国健行登山会 44周年記念祝賀会参加。2日移動(台北～武陵保養地)、3日理事会、4日移動(台北に戻る)、5日帰国
場所 台北からバスにて南に下り、台中近くの国立公園内にある武陵(Wuling)保養地/農場エリア、近くに台湾第二の高峰雪山(3884m)がある。50年前に神崎会長は大学卒業記念山行として訪れている。
主管 C T A A (Chinese Taipei Alpine Association) 中華民国山岳協会

【事前処理】

前年度の活動報告とのことで、事前レポート提出依頼があり、Wordで作成して以下の国に送っておいた。

①環境・自然保護 ネパール

上記とは別にPPT作成のJMA報告書を別途用意する。

1. 参加国

日本(JMA、労山)の他、会長国である韓国(KAF)、中国(CMA)、香港(HKMU)、台湾(CTAA、CTMA/中華民国健行登山会)、ネパール(NMA)、モンゴル(MNMF)合計7カ国、9団体 及びCTAAのスタッフの参加でイランとキルギスは欠席となる。但し労山と香港は理事国ではないのでオブザーバとなる。合計で理事国18人を含む30人の出席となった。韓国は別にトレッキングで大勢来台しており、一部の人が会議にオブザーバで参加した。

2. 台湾について

上記CTAAとCTMAの2つの大きな協会/会がある。今回は前者の主管であった。後者は協力した。最高峰はご存じの様に玉山(主峰3952m)であり、3000m以上の山が100以上ある。今回はバスにて移動時の台北と会議場の間にある合歡山(Hehuan Shan 3417m)近くの展望台(3225m)が最高到達点であった。

3. 議事

3-1. 開催に当たって

(1)開催国であるCTAAの会長のDr.Chung-Da Ho(何中達)の挨拶、皆様に感謝します、とのこと。

(2)ヒマラヤ等で亡くなられた方々に対し黙祷を行う。

(3)U A A A 会長のIn-jeong Lee氏の挨拶、2014年の20周年を控え今は大事な段階にある。CTAA、CTMAに感謝しますとのこと。

(4)定足数の確認を行う。議事次第変更・追加の提案はなく、昨年の総会の記事録の確認となる。読みながら進める。11/4のU A A A 山の日については各々の国々で独自の活動を行うことで統一行動はしない。ミスプリント等の訂正はWeb上に発表する。ネパールはエベレスト登頂60周年を記念して雑誌「Nepal Parbart」を発行、未踏峰リスト、Regulation、ネパールサイドからのエベレスト登頂者のリストなどが掲載されている。

3-2. 各国の活動状況の紹介

(1)CHKM CU / 中国香港攀總：会長が従来のYU Ka-chi, FrederickからLEUNG Nim-ho, Conwayに代わった。来年のU A A A 理事会は6月下旬に開催する予定。近々組織変更がある。Webのアドレスを変更した。

(2)労山：活動報告と提案、ということでPPTを用いて発表した。活動報告は主に動いている年齢層、遭難の実態などであった。提案はこれらの実態を踏まえてUAAAは高峰ばかり考えるのではなく、登山者の傾向を踏まえてもっと登山界全体を議論すべきだとした。

(3)JMA：労山の発表に呼応して神崎会長が今年のGWの国内遭難状況について発表、遭難件数、死亡者の多さに皆ビックリしていた。さらにJMA、JAC、労山等国内6団体の加入者数10万人未満と文科省発表登山者数1千万人とのギャップについて、及び日本の加盟員の平均年齢について発表した。因みに日本はUIAAに8000CHF(スイスフラン)支払っているが韓国は幾らか、と確認したら3000CHFとのことであっ



スタッフも含めた一緒にの写真

た。この後、小野寺が事前に作成したPPT50枚を用いてJMAの活動報告をした。特にJMAの活動そのものではなかったが、山ガール、漫画・映画「岳」などの紹介では注目を浴びたようだ。

(4)CMA／中国登山協会：チェアマン(主席)が代わった、次回GAに参加したい。遭難が増加しており政府からCMAに対し、レスキュー技術のレベルアップ及び報告書の提出要請があった。統計的にハイキング・クライミングは20%アップしている。その他エベレストの頂上に数人が立った。パキスタンや日本、韓国などと合同登山や研修を行っている。スポーツクライミング、スキーの国際大会を行っている。

(5)NMA／ネパール山岳協会：2か月後に国内で選挙があり、憲法が改正されるかも知れない。それによりNMA体制も変わる可能性がある。ポカラにKAFコーナーを作る、UAAAコーナーの展示は2,3年ごとに変えている。アイスクライミングやスキー競技も行いたい。レスキュートレーニング、ガイド組織化のプロジェクトが進行している。記念日が沢山ある、11/1はNMAの日、11/2は韓国の朴氏記念競技会、11/4はUAAA登山の日、9/23は国際ツーリズムなどが代表的記念日である。2014年の合同遠征で未踏峰を登りUAAAピークと名付ける件については別途打ち合わせを持ちたい。

(6)CTMA／中華民国健行登山会：台湾の人口の10%以上は65歳以上であり、健康の為にウォーキングを奨励している。CTAAと合同でGII遠征を企画している。キルギスに10人派遣したい。健康ヨガも奨励している。

(7)CTAA／中華民国登山協会：韓国のアイスクライミングに参加、イランのスポーツクライミングに参加、国際ウォーキングフェスティバルに参加。ボランティアでガイドトレーニングを行っている。

(8)MNMF／モンゴル登山協会：キリマンジャロ、アコンカグア、シシャパンマ、北極などに遠征している。アイランドピークにも7人程度行っている。7月のキルギスの後8月はUIAAのYouthクライミング選手権をモンゴルで行う。

—昼食Break—

3-3. 財政と方針

(1)CTMAの黄氏が財政担当であるが、モンゴルは会費残金をすべて支払った。主だった国は滞りなく支払っているが数年前から滞っているタイ、マレーシア、シンガポール、インドなどはそのままだ。これ以上追

及する気はないようだ。

(2)神崎会長から日本はクライミングでカンボジアを支援するつもりだと発言したが、ネパールのサンタによるとカンボジアはクライミングの技術はこれからだが、経済的には問題ない、とのこと。

(3)これらのことを皮切りにAFSCとの連携をどのようにするか話し合ったが、結局最初は各々自国のNFSCと話してみましよう、ということになった。

3-4. 合同遠征

前述の通り2014年は合同遠征を計画しており、ネパールに110ある未踏峰の一つを開放する。登頂すればUAAAピークとしたい。時期は春で期間は3週間程度である。

従ってランタン付近で高くて難しいルートを選びたい、希望があれば聞きたいとのこと。グループは3つに分け、トップクラスで登頂を目指す隊、ベテランで出来ればトップの隊でもよいが、少なくともBCより上のキャンプに行く隊、後はBC付近で楽しく過ごす隊を考えている。隊長はUAAA会長、共同隊長は神崎会長でどうか？ はPae女史の意見である。NMAはどうしても一つのピークに拘っているが神崎会長はもう一つピークを作ってほしいと要望し検討しますとの返事。実現すればヤラ・ピーク(5732m)かな？ と言っていたがまだ不明。

3-5. 広島開催20周年記念総会

神崎会長が案を作り、2014年10/31～11/5開催ということでイタリアUIAAにて会ったPae女史にも打診、特に訂正依頼もなく国内でもこの日程で進めていた。今回改めて提案書を提出したら、前述の様に11/1はNMAの日、11/2は韓国が最も絡んでいるが朴氏(韓国の8000m峰14座登頂者、故人)を記念しての競技会がネパールで催されることになっていたようで、結局会議後に改めて韓国とネパールに別の日程として11/21～11/26を提案し、OKとなった。今回

パタゴニアを代表する2大山群でしっかりトレッキング

パタゴニア・スーパー・トレッキング
パイン & フィッツロイ山群 15日間

発着地 東京 旅行代金 ¥812,000～¥862,000

出発日 11/8(金)・11/22(金)・12/6(金)・1/10(金)・1/24(金)・2/7(金)

※燃油サーチャージ(2013年7月3日現在:目安約47,000円～49,000円)が別途必要です。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員/ボックF保証会員

 アルパイン ツア サービス 株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル4階 ☎03-3503-1911

大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557

e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

は広島岳連から送られて来た広島と宮島のパンフレット(英語、韓国語、繁体/簡体中国語)を持参し配布した。

3-6. 次回のGAパキスタンの日程

UIAAのGAが10月上旬にスイスで開催される。それに合わせて日程を決めた。9月30日辺りに開催したいとのこと。これは誰のアイデアか、と確認したら、Pae女史は言いにくそうにしており、彼女の提案と分かった。(実は以前も同じことを言っていた)

4. 終わりに

In-jeong Lee会長の挨拶。今回の主管協会CTAAに感謝します。また共同開催と言うことでCTMAにも感謝します。20周年記念等、大事なイベントが多々予定されていますが、パキスタンで元気にお会いしましょう。有難うございました。

16:30閉会となる。この日は雪山(XueShan)の登山口をバスにて見学する。



平成25年度6月(25年6月)運営部会(常務理事・委員長)報告

日時 平成25年6月13日(木)
17:30~20:45
場所 岸記念体育会館103会議室
出席者 神崎会長、八木原、佐藤各副会長、尾形専務理事、小野寺、西内、仙石、森下、京オ、水島、瀧本、青木各常務理事。相良、増山理事。
委員長 高山、山本、北山、澤田、石倉
委任 國松副会長、角田委員長

1. 専門委員会動静

5月常務理事会以降
(4月26日~6月12日)

[報告]

(1)指導委員会

5月13日(月) 出席者8名
ア 4月常任委員会議事録確認
イ 4月常務理事会報告(4/25)
ウ 第1回理事会報告(5/11)
エ 修了証の発行について
・東京、神奈川の修了証を発行予定(5/14)
オ 氷雪技術研修会報告(4/28~29、富士山)
・研修会7名、A級主任検定員4名、上級指導員1名、講師4名が参加
カ 常任委員研修会報告(4/6~7、神奈川山岳スポーツセンター)参加者8名
キ コーチ検討会(4/21、東久留米市)の報告
ク 指導員総会の準備について
ケ コーチ養成講習会(6/22~24、7/13~15)について
コ 「山の知識検定(ヤマケン)」について
サ 指導員認定申請の認定者について
・別紙参照
(2)ジュニア・普及委員会

5月13日(火) 出席者4名
ア 「なすかし雪遊び隊」報告書作成について
・5/19完成予定
イ 平成25年度中高年安全登山指導者講習会について
ウ ジュニア登山教室in立山の準備について
・募集チラシの作成と配布
・現地打ち合わせの日程
エ 第54回全日大会の会場地について
オ 普及委員会の常任委員について
(3)競技委員会
5月16日(木) 出席者10名
ア 選手登録費の改定について
イ 平成25年度ブロック研修会の開催方法について
ウ 競技部各事業の会計責任者及び担当者の割り振りについて
エ リード競技のチーム順位決定について
オ ブロック大会のブロック割当数の検討について
カ ルートセッター規程の改訂について
キ 5月常務理事会報告(4/25)
ク 平成25年度第1回理事会報告(5/11)
ケ リード・ジャパンカップ東京大会の準備状況について
コ JOCジュニアオリンピックカップの準備状況について
サ 平成26年度以降の全国高等学校選抜クライミング選手権及び日本ユース選手権の開催地・開催時期について
シ 国体後催泉の準備状況について
・東京：第2回基準会議とリハーサル大会を実施
・福井：正規視察、11/30(土)予定

・茨城：正規視察、11/18(月)予定
(4)自然保護委員会
5月19日(日) 出席者13名
他実行委員17名
ア 「山岳自然保護の集い中央大会」のリハーサルと研修会
・施設の確認と開催要項の検討
イ エキスカーションの下見
・両神山と長瀨の2組に分かれて状況確認を行った。
(5)国際委員会
5月21日(火) 出席者12名
ア 平成25年度国際委員総会兼海外登山遭難対策研究会について
イ 平成25年度国際委員会委員長及び常任委員について
ウ 大ネパール展の協力について
(6)指導委員会
6月3日(月) 出席者11名
ア 5月常任委員会議事録の確認
イ 日山協定時総会及び第2回理事会の報告
ウ 修了証の発行について
エ 公認スポーツ指導者育成事業事務担当者会議(5/29~30)について
オ コーチ養成講習会(6/22~24、7/13~15)について
カ ハイキングリーダー制度について
キ 指導員総会・研修会の準備について
ク 公認スポーツ指導者等表彰候補者の推薦について
・開澤浩義(富山)、小山幹(宮城)、蛭田伸一(千葉)
ケ 平成25年度委員長について
・永井豊→瀧本健
コ SC主任検定員・AC・B級主任検定員講習会実施要項作成について
サ 登攀技術研修会(10/12~13、岩手)実施要項について



ご存知
ですか？

～日本山岳協会山岳共済会会員様限定～ 「山岳共済会の山岳遭難・捜索保険」のおすすめ

約52%
割引!!



●このチラシは保険の特徴を説明したものです。詳細はパンフレット「山岳共済会の山岳遭難・捜索保険のご案内」をご覧ください。(パンフレットは日山岳協会山岳共済事務センター宛ご請求ください。)

この保険の主な補償内容

- ・登山中のケガで死亡された場合 (※加入タイプによってはケガによる入通院を補償対象とすることができます。)
- ・登山中に遭難し、遭難・捜索費用や救援者費用が発生した場合 等
- ・なお、登山・ハイキング中だけでなく、日常生活や業務中に起こった傷害事故も補償の対象となります。

この保険のご加入条件

- この保険は「日本山岳協会山岳共済会」が契約者となる団体傷害保険です。お申込人(=被保険者(補償の対象者))となれる方は「日本山岳協会山岳共済会会員」のみとなります。
- 会員になる為の手続き方法は、山岳共済会ホームページ掲載の「山岳共済会のしおり」をご確認ください。(毎年別途会費が必要です。)

補償内容・保険料表 (詳しくはパンフレットをご請求のうえ、ご参照ください。)

～「登山コース」の保険料例～

職種級別 A

(1) 保険始期日が4月1日の方

入院補償付タイプがおすすめ!

昨年からの1年間*で入院は171件、通院は304件のお支払い
事実がありました。(※平成23年10月1日～平成24年10月1日の支払実績)
1Bセット・1Cセットなら、1年間1万円前後の保険料でケガによる
入院にも備えることができます!



保険金額 タイプ名	契約基本タイプ							
	1S	S	1B	B	1C	C	1E	E
死亡・後遺障害	100万円	100万円	159万円	159万円	235万円	235万円	500万円	500万円
遭難捜索費用	100万円	100万円	150万円	150万円	200万円	200万円	500万円	500万円
入院保険金日額	1000円	なし	1000円	なし	1500円	なし	2500円	なし
入院を伴う手術保険金※1	○		○		○		○	
通院保険金日額	600円		600円		900円		1500円	
賠償責任	1億円	1億円	1億円	1億円	1億円	1億円	1億円	1億円
保 険 料	6,450円	3,900円	8,260円	5,710円	11,540円	7,720円	23,940円	17,570円

※1 手術保険金は、入院を伴う手術の種類に応じ入院保険金日額の10倍、20倍、40倍の額をお支払します。

～「ハイキングコース」の保険料例～

職種級別 A

(1) 保険始期日が4月1日の方

通院補償付タイプがおすすめ!

昨年からの1年間*で入院は171件、通院は304件のお支払い
事実がありました。(※平成23年10月1日～平成24年10月1日の支払実績)
IIセット・新設のIIIセットなら、ケガによる通院にも備えることができ
ます!



保険金額 タイプ名	契約基本タイプ		
	I	II	III
死亡・後遺障害	150万円	250万円	300万円
救援者費用	300万円	300万円	500万円
賠償責任	1億円	1億円	1億円
入院保険金日額	2,000円	4,000円	5,000円
入院を伴う手術保険金	入院を伴う手術の種類に応じ入院保険金日額の10倍、20倍、40倍の額をお支払いします。		
通院保険金日額	なし	1,500円	2,500円
保 険 料	2,140円	5,470円	7,540円

新設しました!

- 「登山コース」は、ピッケル、アイゼン、ザイル等の登山用具を使用する登山中の事故を対象としております。一方、「ハイキングコース」は前記の登山用具を使用しない普通の登山(ハイキング等)中の事故を対象としています。
- このチラシの保険料は一例です。ご加入者様のご職業によって保険料が異なります。詳しくはパンフレットをご請求のうえ、ご参照ください。
- どのタイプでもご加入できますが複数タイプ・セットのお申込みはできません。(全ての加入タイプ・セットのうちいずれか一つのみ選択可能。)
- 保険金額はご加入いただいた被保険者の人数に従った割引率で決定されますので、募集の結果上記と異なる保険金額に変更される場合があります。この場合、死亡・後遺障害保険金額を割引率に応じた金額とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。
- 保険期間は平成25年4月1日～平成26年4月1日となります。毎月、パンフレット掲載の所定の日付での中途加入も受け付けております。

お問い合わせ及びパンフレット請求先: 日本山岳協会山岳共済事務センター

月～金 10:00～17:00(土・日・祝祭日除く)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-7-11-707

電話 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

Eメールアドレス sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

ホームページ <http://sangakukyousai.com>

契約者: 日本山岳協会山岳共済会

取扱代理店: 瀬田工業有限会社

引受保険会社: 三井住友海上火災保険株式会社

承認番号: B12-102339 使用期限: 2014.4.1

- シ SC指導員養成講習会について
- ・中央主管：埼玉 10/26～27、11/9～10、福岡 11/2～3、11/16～17
 - ・地方主管：宮城 8/17～18、8/24～25、沖縄 12/7～8、12/14～15

2. その他の重要事項

(4月26日～6月12日)

【報告】

- (1)UIAA理事会
5月1日(水)～7日(火) 於：イタリア・オルビエート 神崎会長、小野寺事務局長
- (2)「山の知識検定」打合せ
5月10日(金) 於：岸記念体育会館 尾形専務理事
- (3)平成25年度第1回理事会
5月11日(土) 於：岸記念体育会館 神崎会長ほか
- (4)遭対常任委員研修会 5月11日(土)～12日(日) 於：上尾市・スポーツ研修センター 西内専務理事
- (5)(公社)日本山岳ガイド協会総会
5月14日(火) 於：プラザエフ 神崎会長
- (6)2020夏季五輪実施候補競技合同取材会 5月16日(木) 於：岸記念体育会館 尾形専務理事、北山専務理事
- (7)自然保護常任委員研修会
5月18日(土)～19日(日) 於：埼玉・小川げんきプラザ 松隈常任委員ら30人
- (8)平成25年度神奈川県山岳連盟代議員会 5月21日(火)
於：神奈川県立スポーツ会館A会議室 神崎会長
- (9)加賀市寺前秀一市長表敬来局
5月21日(火)
- (10)アルパインガイド協会会員披露・懇親会 5月22日(水) 於：新宿住友ビル47F 神崎会長
- (11)えひめ国体(2017年)関係者(愛媛県体育協会・藤原恵専務理事ほか)表敬来局 5月23日(木)
- (12)平成25年度定時総会
5月26日(日) 於：岸記念体育会館 神崎会長ほか
- (13)平成25年度東京都山岳連盟総会
5月28日(火) 於：国立オリンピック記念青少年総合センター 神崎会長
- (14)エベレスト初登頂60周年記念式典 5月28日(火)～6月8日(土)
於：ネパール・カトマンズ 八木原副会長
- (15)平成25年度公認スポーツ指導者

- 育成事業事務担当者会議
5月29日(水)～30日(木) 於：品川プリンスホテル・メインタワー8F「ターコイズ8」
瀧本専務理事、蛭田委員
- (16)第68回東京国体第2回基準会議
5月31日(金)～6月1日(土)
於：東久留米市スポーツセンター 神崎会長、森下専務理事、高山、北山委員長
 - (17)第68回東京国体リハーサル大会
6月1日(土) 於：東久留米市スポーツセンター 佐藤副会長、森下専務理事、高山、北山、山本委員長
 - (18)第27回リードジャパンカップ
6月1日(土)～2日(日) 於：東久留米市スポーツセンター 佐藤副会長、森下専務理事、北山、山本、高山委員長
 - (19)大ネパール展
6月1日(土)～2日(日) 於：東京タワー 神崎会長、尾形専務理事
 - (20)UAAA理事会
6月1日(土)～5日(水) 於：台湾・台北 神崎会長、国澤顧問、小野寺専務理事
 - (21)山岳7団体自然環境連絡会
6月6日(木) 於：労山事務所 石倉委員長、松隈、徳永常任委員
 - (22)平成25年度指導委員総会・研修会
6月8日(土)～9日(日)
於：東京海員会館

神崎会長、瀧本専務理事

3. 議事

- (1)平成25年度5月専務理事会議事録の承認について(承認)
- (2)平成25年度第1回理事会議事録の承認について(承認)
- (3)平成25年度定時総会議事録の承認について(承認)
- (4)平成25年度第2回理事会議事録の承認について(1箇所訂正で承認)
- (5)平成25年度少年少女登山教室交付申請の承認について(提案通り承認)
- (6)平成25年度日体協公認スポーツ指導者等表彰候補者の推薦について(井上邦彦(山形)、切嶋良(東京)、佐原晴人(愛知)の推薦を承認)
- (7)自然公園指導員の推薦について(自然保護委員会に一任)
- (8)国体功労者表彰対象者の推薦について(該当者無しで承認)
- (9)報告事項
ア 会計月次
イ 平成25年度専門委員会常任委員について(候補者の早めの選考及び副委員長、庶務担当者の選任を要望)
ウ 「山の知識検定」の公認名義について(公認名義を承認し、覚書を締結した旨報告)

寄贈図書

寄贈本	Nepal Mountaineering Association	「Nepal Parbat」
	中華民国山岳協會	「彩墨雪霸」
雑誌	東京新聞出版部	「岳人」No.793 2013年7月号
	山と溪谷社	「山と溪谷」No.939 2013年7月号
	(公社)日本山岳会 越後支部	「日本山岳会越後支部報」第7号
	中国登山協会	「山野 中国户外」2013.04/05
	(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.422 2013.6
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第552号
	埼玉県山岳連盟	「埼玉岳連」第45号
	(公財)全日本ボウリング協会	「JBC news」第499号
	(公社)日本山岳会自然保護委員会	「木の目草の芽」第104号
	長野県山岳協会	「やまなみ」No.209
	(株)スクールパートナーズ	「高校生新聞」第297号
	(公財)日本体育協会	「体協SPORT NEWS/FAIRPLAY NEWS」2013年6月10日号
会報	NPO日本オリンピックズ協会	「OAJ news」2013 Vol.21
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」No.461
	愛知県山岳連盟	「愛知岳連ニュース」第403号
	日本ヒマラヤ協会	「HIMALAYA」No.465
	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」第400号
	(公社)日本山岳会	「山」No.817
	やまびこ山想会	「やまびこ」第148号
	東京野歩路会	「山嶺」Vol.90 No.1000
	中国登山協会	「山野 中国户外」2013.02/03
	Korean Alpine Federation	「大山聯」Vol.174 2013 June
	おいらく山岳会	「山行手帖」No.643 2013年7月
	福岡山の会	「せふり」No.357
	(公財)日本体育協会	「体協SPORT NEWS/FAIRPLAY NEWS」2013年6月24日号

- エ リードB代表選手及びユース代表追加選手について
- オ 白山ジオトレイルの協力について
- カ 2013 U A A A 理事会報告
- キ 山岳共済会会長の選任について(役員異動に伴い八木原副会長を山岳共済会会長に選任した旨報告)
- ク 「ヒマラヤと南極を語る」講演会と里山歩きのご案内

4. 役員等の派遣について

- (1) 全国山岳遭難対策協議会幹事会 6月14日(金) 於：文部科学省 西内常務理事
- (2) 富士山利用者負担専門委員会 6月14日(金) 於：都道府県会館 尾形専務理事
- (3) 田中文男顧問叙勲受章祝賀会 6月16日(日) 於：明治記念館 神崎会長ほか
- (4) 第1回国体競技運営部会 6月20日(木) 於：岸記念体育会館 高山委員長
- (5) 高知県山岳連盟創立65周年記念式典・祝賀会 6月22日(土) 於：高知市・高知会館 神崎会長
- (6) 平成25年度国際委員総会・第32回海外登山遭難対策研究会 6月22日(土)～23日(日) 於：八王子セミナーハウス 八木原副会長、澤田委員長
- (7) スポーツ安全協会評議員会 6月25日(火) 於：東海大校友会館・東海の間 神崎会長
- (8) 登高会創立30周年記念祝賀会 6月25日(火) 於：ハイヤットリージェンシー東京 神崎会長ほか
- (9) 平成25年度定時評議員会 6月26日(水) 於：品川プリンスホテル 内藤監事
- (10) モンベル高輪ビル披露会 6月27日(木) 於：モンベル高輪ビル 尾形専務理事
- (11) 「山はみんなの宝」憲章制定発表大会 6月27日(木) 於：東京環境工科専門学校 石倉委員長、松隈、徳永常任委員

- (12) 日本ワールドゲームズ協会総会 6月28日(金) 於：TKPツインタワーカンファレンスセンター 尾形専務理事
- (13) 雪標山岳会創立60周年記念祝賀会 6月29日(土) 於：南国酒家迎賓館 佐藤副会長ほか
- (14) 平成25年度遭難対策委員総会・研修会 6月29日(土)～30日(日) 於：大阪リバーサイドホテル 神崎会長、西内常務理事
- (15) 全国山岳遭難対策協議会 7月3日(水) 於：文部科学省講堂 神崎会長、尾形専務理事、西内常務理事
- (16) 故羽田栄治氏偲ぶ会 7月3日(水) 於：ヒルトン東京 神崎会長ほか
- (17) 国立登山研修所専門調査委員会 7月4日(木)～5日(金) 於：国立登山研修所 尾形専務理事、北村、増山理事
- (18) 谷川岳山開き 7月7日(日) 於：土合 神崎会長
- (19) 山岳4団体懇談会 7月17日(水) 於：南国酒家迎賓館 神崎会長、八木原、佐藤副会長、尾形専務理事
- (20) 平成25年度 toto 助成金交付式 7月24日(水) 於：東京プリンスホテル 尾形専務理事
- (21) 第56回高頭祭 7月25日(木) 於：弥彦山 神崎会長、八木原副会長
- (22) 山岳7団体自然環境連絡会 7月29日(日) 於：労山事務所 松隈、徳永常任委員
- (23) 第56回全国高等学校登山大会 8月1日(木)～6日(火) 於：大分・九重連山 神崎会長、青木常務理事、高山委員長

5. 後援、協賛等の依頼について

- ア 百万人の山と自然「安全のための知識と技術公開講座」の後援名義について (日本山岳ガイド協会)(承認)

6. 報告

- (1) 自然保護指導員の承認 なし
- (2) 指導員の認定承認
 - ① S C 指導員 なし
 - ② S C 上級指導員 なし
 - ③ アルパイン指導員
 - 大阪：永見美子、坂井田博義、田中昭男、三宅正弘
 - 岩手：渡辺良平、寺内宏晋、久保賢治、千葉真英
 - 茨城：大内増雄、安藤正一、河又清美、宮下直人、鈴木次夫
 - ④ アルパイン上級指導員 なし

7. 通知、依頼、連絡、案内等別紙の通り

8. 連絡事項

- ① 平成25年度7月常務理事会 7月11日(水) 17:30～21:00 (岸記念体育会館103号室)
- ② 第2回運営部会 9月12日(水) 19:00～21:00 (岸記念体育会館*号室)

編集後記

6月22日、富士山が世界文化遺産に登録されて以来、マスコミ等の話題になりにぎやかだ。懸案の入山料は、今夏「富士山保全協力金」の名目で徴収額1000円とし、ハイシーズンの7月25日から8月3日、午前9時から午後6時の間に徴収。支払いは任意、応じた人には記念品の缶バッジが渡される。

世界文化遺産となった富士山を、この先どのような形で保全してゆかかが問われている。

(広報担当 水島彰治)

登山月報 第532号

定価 100円(送料別)
 予約年間 1,200円送料共
 昭和45年12月12日
 第三種郵便物認可
 (毎月一回15日発行)
 発行日 平成25年7月15日
 発行者 東京都渋谷区神南1の1の1
 岸記念体育会館内
 公益社団法人日本山岳協会
 電話 03-3481-2396
 F A X 03-3481-2395

NPO法人 北丹沢山岳センター

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

蛭ヶ岳山荘 TEL:090-2252-3203(衛星電話)

神の川ヒュッテ TEL:042-787-2276

和時計「時の茶屋」 TEL:042-687-2882

理事長・代表 杉本憲昭

NPO法人 北丹沢山岳センター

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

- 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
- 陣馬山トレイルレース実行委員会
- 八重山トレイルレース実行委員会
- 東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会

大会々長 杉本憲昭